

介護事業部 ヘルパーセンター 好事例シリーズ②

「自立支援に向けた
生活環境改善への取り組み」

～事例分類～

健康状態 / **理解・行動** / ADL /

家事・IADL / QOL / 介護状況

ヘルパーさんとのかかわりが
どんな変化をもたらしたのか、
読んでみるまも♪



スライド全6枚

【事例情報】

○50歳代 ○男性 ○障害区分4

【Before】令和2年5月25日頃

掃除支援で訪問しているが、室内は物が溢れており、掃除をするスペースすらないため、ヘルパーより「活動時間が余る」と報告があった。

ヘルパーがまとめたダンボールもそのまま室内に放置され場所を取っており、せめてそれだけでも片付けられたらとの話を受け、サービス提供責任者がモニタリングのため訪問した。室内はゴミ屋敷化しており、大量のダンボールには雑貨や薬、趣味の品等無造作に詰め込まれ、床が見えない程物で溢れていた。すべて必要な物かご本人に確認すると「捨てるのも良いですよ」と回答があった。



【After】令和2年10月1日頃

7月某日、就労支援事業所の管理者とサービス提供責任者が訪問し、室内の整理に取り組んだ。ご本人の意思を尊重し「いる・いない」を一つひとつ確認して分別作業を行った。結果、不用品を大量に処分し、室内の床が見えるようになった。

それ以降、ご本人は所有物を把握することが可能となり、週1回の掃除支援で、ヘルパーの声かけによりゴミを分別し、整頓された室内を維持している。更に、ご本人が掃除や調理に参加するようになったため、掃除支援は家事1.5時間から身体1.0時間+家事0.5時間へ、調理支援は家事1.0時間から身体1.0時間へ変更できた。



経過

障害要因・背景	サービス・ケア内容	サービス提供のねらい
<p>発達障害による生活のし難さと、元々統合失調の母親とゴミ屋敷で生活していたため、掃除のスキルが獲得できずにいた。</p>	<p>サービス提供責任者のモニタリング、アセスメントによる分析、状況把握。関係機関と連携しサ責が対応した環境整備。</p>	<p>清潔な室内を維持できる環境の構築。</p>



事例提出者からのアピールポイント

項目	内容
障害の特性理解	ご本人の了解を得て就労支援事業所の管理者へ室内がゴミ屋敷化していると相談する。ヘルパーセンターで把握している情報と就労支援事業所の情報を合わせて、障害特性による改善の可能性を探り、助言をもらえた。
関係機関との連携	就労支援事業所の管理者にも掃除に立ち会ってもらい、ヘルパーでは出来ない電子レンジの処分等役割分担して片付けることができた。
モチベーション維持	月1回のモニタリングを繰り返すことで、ご本人のモチベーションを維持。またヘルパーが冷蔵庫内にノートタッチと判明。冷蔵庫内の古い食材も処分し、冷蔵庫の中にある食材を生かす調理を提案するよう改善できた。
身体介護の申請	家事支援で掃除、調理を行っていたが、モニタリング、アセスメント実施し家事に参加できる能力があることがわかった。就労支援事業所の協力を得て、身体介護の申請が出来た。結果、35時間の身体介護が認められた。
ご本人の満足度	ご本人も現在の清潔な室内に満足されており、ヘルパーと共に掃除、調理を頑張っている。

□事例へのコメント□

今回の事例は、就労支援事業所とサービス提供責任者が協働して、ご本人の意向を丁寧にくみ取りながらお部屋の片づけを進めました。必要な物が把握できた衛生的で暮らしやすい環境をご本人が体験的に自分にメリットのあるものとして理解できるよう支援したことが、掃除・調理への参加や、室内環境の保持など、ご本人の生活意欲の向上という成果につながったと言えます。

ご本人をよく知る関係者が情報共有を図り、障がい特性や生活課題などを的確・総合的に把握し、状況に応じた支援を連携して進める試みは、今後ますます重要視されていくところであり、支援の質的向上や継続性を確保していくうえでも大変有効なので、今後も継続していただければと思います。

【社会福祉協議会 自立支援課】



私たちと一緒に 働きませんか♪

お友達を紹介して
ほしいまも

ヘルパー募集のご案内はこちら！



社会福祉法人札幌市社会福祉協議会
介護事業部



まもりん